



京都市教育長賞

キレイゴト

京都市立岩倉南小学校 六年

依光よりみつ

由里華ゆりか

「良いことをすれば自分も相手もつれしくなる。」大人たちはみんなそう言う。ただのきれいなことだ。そう思っていた。いつもの金曜日。私は習い事にいく途中で、電車に乗っていた。すると、マタニティマークをかばんにつけた女の子が、「どうぞ、お座りください。」とすぐに言ったのだ。女の人は「ありがと。」と満面の笑みで言った。ただ、それだけだ。一しゅんだった。あの女の子の一言で、女の人はとてもうれしそうに、「ありがと。」と言ったのだ。その一ヶ月後、いつものように電車に乗っていたら、ご年配の方がやってきた。私はあの女の子を思い出し「どうぞ、お座りください。」と試してみた。視線が集まる。ドキドキする。断られたらどうしよう。変な人と思うだろうか。そう思っていたら、ご年配の方は「ありがと。」とつてもうれしそうに、「とくにここにこしながら言ったのだ。私は今までに感じたことがないほどうれしくなった。初めて会った人に感謝された、と。あのきれいなことは本当だったのだ。この話も「アニメの話じゃないか。」と思うかもしれない。だが私は本当にそう思ったのだ。

社会を明るくするために、私は希望が必要だと考える。小さな希望で小さな勇氣、小さな勇氣で大きな思いやり。たとえそれが不可能に思える希望でも信じてみることで勇氣は生まれる。また、希望があれば犯罪や非行に手を染めるようなことは起らないはずだ。だが私たちは希望を忘れてる。大きな希望は感じられるだろうが、小さな希望は感じられない。身近すぎるのだ。生きることができ希望。私はこの希望を忘れたくない。そして、他の人たちにも、忘

れてほしくない。

社会を明るくするために、私は私自身を大切にしたい。私自身も大切にすることで気持ちが明るくなる。明るくなることでポジティブに物事を考えられるはずだ。また、ありのままの自分であることができる。ありのままの自分であることで楽しいことを楽しむ、悲しいことは悲しいと、自分の気持ちを受け入れやすくなる。

私はきれいなことがきらいだ。でも今は好きだ。希望がもてるから。思いやりであるから。夢に向かって走り続けることができるから。「良いことをすれば自分も相手もつれしくなる。」私が大好きな「キレイゴト」だ。





「つだけ咲いているのを見つけた。「ひいおばあちゃんもここに
るね。」と心が温かくなったのは忘れない。

